



## 基本的な考え方

保土谷化学グループに損害を与える違法行為、品質不良、天災、感染症、情報漏洩その他のリスクについて、損害を最小化するために保土谷化学グループとしてのリスク管理体制を整備しております。  
 また、企業価値を維持、増大し、企業の社会的責任を果たし、グループの持続的発展を図るため、全役職員がリスク認識を向上させ、全員参加によりリスクマネジメントを推進する取り組みを行っております。

## リスクマネジメント委員会

保土谷化学グループは、「リスクマネジメント委員会規程」に基づき、リスクマネジメント委員会を設置しております。

同委員会を定期的に開催し、保土谷化学グループ全体として、リスク認識を深めた上で、リスク軽減策を策定し、対応状況の進捗確認を実施するとともに、「危機管理規程」に基づき損害を最小化する取り組みを行っております。

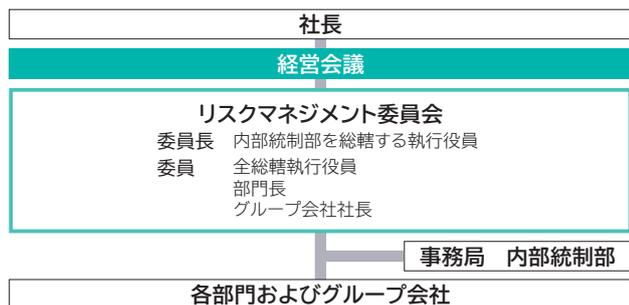
委員会での討議内容は、取締役会および経営会議に付議・報告しております。

## 2025年度の全体的なリスク認識

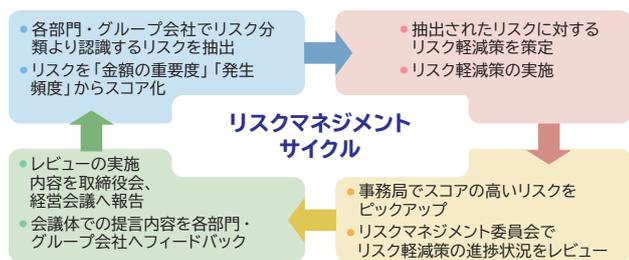
2025年度のリスクマネジメント委員会では、全体的なリスクとして以下を認識しております。

- 【米国の政策を巡る不確実性】  
 関税引き上げ、移民対応、減税等が実行される場合、インフレ高進（→スタグフレーション）
- 【米国の関税等による日本への影響（リスクシナリオ）】  
 ー 景気後退、スタグフレーション、金融危機波及  
 ー 製造業、特に資本財セクターへの打撃大（産業機械、建設機械、輸送機械（含む自動車）等）
- 【世界多極化の方向、欧米での中間層瓦解による政治分断】

## リスクマネジメントの体制図



## リスク評価手順



※特にKGI/KPIを阻害するリスクをKRF (Key Risk Factor) として認識

## 2024年度の討議内容

2024年度に行われたリスクマネジメント委員会での討議内容は、左図のリスクマネジメントサイクルに基づき、主に販売リスク・製造リスク・購買調達リスク等について議論を行いました。

## 情報セキュリティ

保土谷化学グループは、会社情報を機密として管理するとともに、情報セキュリティを確保することは、事業活動の基本であり、社会的責務であると認識しております。

「情報セキュリティの方針」を策定し、本方針には、情報の適切な入手・利用・開示・管理・保護の取り組みやセキュリティ対策を明記し、不正競争防止法、インサイダー取引規制等の関連法規の遵守も定めております。

また、全役職員を対象に情報セキュリティ意識の向上を目的とした教育を実施しております。

## VOICE



内部統制部  
A.A.

### 「心理的安全性とコンプライアンスが生む信頼の輪」

内部統制部では、日々の業務を通じて、組織全体でコンプライアンスを徹底し、信頼を築くサポートを行っています。私が特に大切にしているのは、心理的安全性のある職場環境です。誰もが安心して意見を発信し、ミスや疑問を共有できることで、不正の防止や課題の早期発見につながります。こうした環境があれば、同僚同士で自然と支え合い、建設的な議論を通じて新しい価値を生み出すこともできます。

日々の会話の中で「それはいいアイデアだね」「気づいてくれて助かった～」といった言葉が交わされる瞬間に、心理的安全性が組織の原動力になっていると感じます。これからも、安心と信頼の輪を広げ、会社の未来を支える一員でありたいと思います。